

20080728

49<sup>th</sup>ENC 参加報告書  
日本核磁気共鳴学会「若手研究者渡航費助成金」  
(京極記念基金)

平成 20 年 3 月 19 日  
独立行政法人物質・材料研究機構  
ナノ計測センター・強磁場 NMR グループ  
山田 和彦

日本核磁気共鳴学会「若手研究者渡航費助成金」(京極記念基金)の助成を受け平成 20 年 3 月 9 日から 14 日まで、米国カリフォルニア州アシロモアで開催された第 49 回 ENC (Experimental Nuclear Magnetic Resonance Conference)に参加しました。この学会は一年おきに西海岸(カリフォルニア)と東海岸(フロリダ)で交互に開催される米国の伝統的な磁気共鳴学会であり、日本で言えば NMR 討論会のような存在かと思えます。私は学生時代の大半を北米大陸で過ごしてきた都合で、初めて ENC に参加したのは 10 年ほど前でした。当時は日本人研究者の口頭やポスター発表はそんなに多くはなかったと記憶していますが、本年度の ENC ではおよそ 40 名ほどの日本人研究者が参加したそうで、ポスター会場や口頭発表後の質疑応答など至る所で熱心に質問や議論している日本人研究者の姿が多数見受けられました。また、多くの日本の研究機関・大学の先生方が研究成果を口頭発表しているのも、日本における最先端の磁気共鳴研究が世界的にみても注目されているという証拠だと思えます。

本年度の ENC で私は「A Solid-state <sup>17</sup>O NMR Study of Metal-organic and Biological Compounds」と題したポスター発表を行いました。酸素は言うまでも無くタンパク質などの生体分子の研究において鍵となる重要な原子です。ところが、生体分子における酸素を対象にした NMR 法は、プロトンや炭素や窒素に比べると、ほとんど発展していないというのが現状です。私の研究の大きな目標のひとつは、生体分子の機能解析の新規実験手法として、タンパク質などの巨大分子を対象にした酸素 NMR 法を開発することです。まだまだ道半ばですが、ENC などの国際学会で多くの研究者と討論しながら勉強して、少しでも前に進みたいと思っています。

来年の ENC は 50 周年の記念学会であり、再び ENC 発祥の地アシロモアで開催されるそうです。今年よりも更に多くの日本人研究者の発表があるかと思えます。私も負けずに自身の酸素 NMR の研究に励み微力ながらも日本における磁気共鳴研究に少しでも貢献できればと思います。最後に、本助成金によって日本からも国際学会に参加できる貴重な機会を与えて下さいました故京極好正大阪大学名誉教授、故阿久津政明氏、ご家族の方、並びに日本核磁気共鳴学会関係者の方々に深くお礼を申し上げます。